

## 17 ネット上の誹謗中傷（インターネット）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、中上真亜子がお届けします。

10 最近、インターネット上での悪質なじめや、言葉の暴力が問題になっています。5月に亡くなった女子プロレス選手のSNS上には、

「早く消えてくれよ。」「吐き気がする。」

など、ゾツとする言葉が毎日100件近く書かれていて、ネットを開く度に目にする暴言に、彼女は追い込まれていったそうです。

15 なぜ、こんなことが起こるのでしょうか？ 今回は、ある日突然、何の関係もない殺人事件の犯人に仕立て上げられ、10年以上もインターネット上の誹謗中傷と闘ってきた、タレントのスマイリーキクチさんに伺ってみました。

20 【スマイリーキクチさん役】ネット上の誹謗中傷の怖さは、まず匿名であること。相手の顔や身元が分からない不気味さがあります。

さらに、刺激的な言葉に同調する人が大勢になれば、集団からの言葉の暴力を、途切れる間もなく浴びることになりま

25 す。書き込まれた言葉がナイフのように心に突き刺さり、命を絶つまで追い詰められることがあると、知っておかなければいけません。

30 一方で、ネットに書き込んだ人は、軽い気持ちやその場の感情でつぶやいただけで、一度書いてしまえばすぐに忘れたり、加害者という自覚があまりなかったりすることも特徴です。また、ネットをストレスのはけ口にしている人も多く、言論の自由や正義をはき違えている人もいます。

35 でも、言葉を発するには責任が伴います。このことをみんながしっかりと認識しておかないと、私たちは誰でも、加害者にも被害者にもなり得るのです。

40 「今、ネットに書き込もうとしている言葉は、あなたの職場や学校などでも面と向かって言える言葉ですか？ もしあなたが言われたら、耐えられる言葉ですか？」

ネットに書き込む前に、自分自身にそう問いかけてほしいと思います。

45 (ナレーター) もし被害にあった時は、ひとりで悩みを抱えこまずに、いろんな人に話してほしい、とスマイリーキクチさんは言います。法務省のみんなの人権一〇番やインターネット人権相談窓口で、相談を受け付けているので、小さなことでも気軽に相談してみてください。